

2012 年度（第 2 事業年度）

# 「事業報告書」

2012 年 4 月 1 日から

2013 年 3 月 31 日まで

一般財団法人 Ruby アソシエーション

# 「2012年度事業報告」目次

1	事業の概要	2
2	体制及びその変更	2
	1) 評議員	
	2) 理事	
	3) 監事、顧問及び事務局	
	4) 評議員選定委員会	
3	実施事業	3
	1) 公募型開発プロジェクト	
	2) Ruby 安定版保守事業	
	3) Ruby に関する情報発信事業	
	(1) Web での情報発信	
	(2) RubyWorld Conference の開催	
	(3) セミナー活動	
	(4) その他、イベントの開催	
	4) Ruby 技術者認定試験事業	
	5) 事業者認定事業	
	6) 協賛会員事業	
	7) 寄付事業	

## 1 事業の概要

プログラミング言語 Ruby は、2012 年 4 月にその言語仕様が国際規格に承認（ISO/IEC 30170）され、軽量 Ruby の開発成果が公表されるなど、Ruby への信頼性の高まりと利用範囲の更なる拡大に向けて節目となる年でした。また、今年 2 月にはその開発から 20 年を迎えるとともに、5 年ぶりのメジャーバージョンとして Ruby2.0 がリリースされ、Ruby は新たな時代へと突入しました。

2012 年度は、こうした背景を元にした Ruby のビジネス利用の拡がりとともに、一般財団法人 Ruby アソシエーション（以下、「当財団」と言う。）への期待も高まった一年でした。当財団は、その目的である Ruby 関連のプロジェクトやコミュニティ、ビジネスの関係をより良好なものとし（「Ruby Eco System」の構築）、ビジネス分野における Ruby の利用に関する諸課題の解決に取り組みました。

本書では当財団の 2012 年度の実施事業について報告します。



## 2 体制及びその変更

### 1) 評議員

2012 年度当初、以下の 13 名（五十音順）が評議員でした。

- ・ 及川 喜之 (株)セールスフォース・ドットコム CTO
- ・ 大場 寧子 (株)万葉 代表取締役社長
- ・ 後藤 裕蔵 (株)ネットワーク応用通信研究所 取締役
- ・ 最首 英裕 (株)グルーヴノーツ 代表取締役社長
- ・ 柴田 直樹 (株)まちづくり三鷹 常務取締役
- ・ 正村 勉 (株)日立ソリューションズ  
技術開発本部 本部長 兼 Ruby センタ センタ長
- ・ 立久井 正和 (株)インターネットイニシアティブ  
サービス本部 プラットフォームサービス部長

- ・中島 宏 (株)DTS IT インテグレーション事業本部 IT プラットフォーム部 部長
- ・羽田 昭裕 日本ユニシス(株) 総合技術研究所 所長
- ・平松 知江子 (株)富士通ソーシャルサイエンスラボラトリ  
生産革新技術センター長代理 兼 OSS ビジネス推進部長
- ・森 正弥 (株)楽天 執行役員 兼 楽天技術研究所 所長
- ・吉岡 宏 (株)テクノプロジェクト 代表取締役社長
- ・吉田 正敏 富士通(株) プラットフォーム技術本部 チーフストラテジスト

2013年3月の柴田氏の辞任に伴い、評議員選定委員会の承認を得た以下の者が新たに評議員に就任しました。

- ・出田 健二 (株)まちづくり三鷹 経営事業部企画事業グループマネージャ

## 2) 理事

2012年度当初、以下の3名が理事でしたが、9月開催の評議員会で理事体制が変更となりました。

(当初)

- ・代表理事 松本 行弘
- ・副理事長 前田 修吾
- ・理事 井上 浩

(変更後)

- ・代表理事 松本 行弘
- ・副理事長 井上 浩
- ・理事 澤田 盛繁  
橋本 明彦  
田中 和明  
笹田 耕一

## 3) 監事、顧問及び事務局

- ・監事 今岡 正一 (公認会計士)
- ・顧問 松浦 正敬 松江市長、溝口 善兵衛 島根県知事
- ・事務局 9月より前田修吾(前副理事長)が事務局長として、事務局業務全般を統括し、常勤スタッフ1名の他、松江市、島根県による人的支援によって運営しました。また、今期から利用事例作成編集の担当スタッフとして外部ライターと契約をしました。

## 4) 評議員選定委員会

- ・委員長 立久井 正和 (評議員)
- ・委員 今岡 正一 (監事)、横田 早百合 (事務局員)、  
田代 秀一 (外部委員)、高橋 征義 (外部委員)

# 3 実施事業

## 1) 公募型開発プロジェクト

Ruby 及び周辺環境の改善を目的に Ruby 処理系、ライブラリ及びフレームワークに関連する開発プロジェクト(既存のソフトウェアを改良するプロジェクトを含む)を公募し、グラント委員会で選考の結果、以下2件のプロジェクトを採択しました。

いずれも 2013 年 3 月 31 日までに開発を終え、現在はその成果を公開しています。

- ・ 公募期間：2012 年 7 月 17 日 ～ 8 月 20 日
- ・ 応募件数：8 件（日本国内 1 件、国外 7 件）
- ・ 採択件数：2 件

①採択者：Ruby Science Foundation	プロジェクト：SciRuby and NMatrix
<p>NMatrix は Ruby のための行列ライブラリであり、SciRuby プロジェクトの一部です。NMatrix と SciRuby に統計的、数值的、視覚化ライブラリを提供することによって、科学コミュニティに Ruby が広まることが期待されます。</p>	
②採択者：Sam Rawlins氏	プロジェクト：Creosote - A Mathematics Package for Ruby
<p>CreosoteプロジェクトはRubyエコシステムで利用可能ないくつかの強力な数学ライブラリを開発します。現在は、数学的GMP、MPFR、MsieveライブラリのRubyバインディング(C拡張)をメンテナンスしています。今日、これらのライブラリは別個のgemで提供されており、お互いのライブラリの存在を認識しにくくなっています。これらのライブラリを含めて、より多くの数学ライブラリを含むCreosoteプロジェクトを成長されることを目的としています。</p>	

## 2) Ruby安定版保守事業

ユーザが安心して Ruby を利用できる環境を構築するため、Ruby 安定版の保守事業を実施しています。事業仕様策定後に業務を外部機関に委託することと、委託先の選定に際し公募を行った結果、株式会社 TOUA に決定いたしました。委託期間は 2012 年 10 月 1 日から 2013 年 3 月 31 日です。

## 3) Rubyに関する情報発信事業

### (1) Webでの情報発信

協賛会員をはじめ、Ruby をビジネス利用する企業に利用事例作成編集の担当スタッフが当該企業担当者に直接面談し、概要情報と詳細情報の作成を行いました。これらの情報は、利用時の背景事情、適用されたビジネス・システム分野やその特性など、利用企業のみならずエンドユーザ(企業や個人の場合あり)の損益にも深く関わる場合があることから、公開前に利用企業等による内容確認を実施し(その際にエンドユーザに了解を得ることもあった)、関係者合意の上で財団ホームページに掲載しました。2012 年度は新たに 9 件の利用事例を紹介しました。

2012年度 新規掲載企業	テーマ
東京ガス、株式会社ティージー情報ネットワーク	リアルタイム地震情報配信サービス「jishin.net」を Ruby で構築
リバティ・フィッシュ株式会社	タブレット端末を活用した介護施設向けシステムを Ruby により商品化
国立大学法人島根大学	Ruby、Ruby on Rails で新たな講義を開講
クックパッド株式会社	日本の食卓を支える料理レシピサービスを Ruby で開発

株式会社まちづくり三鷹、株式会社コミュニティ・クリエイション	自治体向け業務パッケージを Ruby で開発
イズミヤ株式会社、株式会社万葉	クラブカード会員向けモバイルサービスを Ruby で開発
日本ユニシス株式会社	Ruby で加速する新しいクラウドサービスの開発
シーイーシークロスメディア株式会社	メディアコンテンツ作成サービスを支える Ruby on Rails
島根県庁	Ruby による産業構造の転換

## (2) RubyWorld Conferenceの開催

2012年11月8日(木)、9日(金)、島根県立産業交流会館「くにびきメッセ」(島根県松江市)にて、4回目となる「RubyWorld Conference 2012」を開催しました。主催は、RubyWorld Conference 開催実行委員会(構成機関:当財団、島根県、松江市、島根大学、松江高専、ジェットロ松江、しまね産業振興財団、島根県情報産業協会、しまねOSS協議会、経済産業省中国経済産業局)、共催は情報処理推進機構(IPA)、その他、多くの機関の後援、協賛をいただき実施しました。

今回の国際会議では、Rubyに関するビジネス利用事例や、最新技術の情報、言語仕様の標準化の動向などを紹介する様々なセッションを通じて、Rubyがより多くの領域に普及していくことを目指し、国内外16名が講演し、来場者数は2日間で延べ949名(詳しくは下記を参照)を数えました。

基調講演では、実行委員長でもある松本理事長が「How to change the world」と題し講演。また、2日目の基調講演では、英語圏において最初にRubyを取り上げた書籍「プログラミング Ruby」の著者としても知られている Dave Thomas氏が「The Limits of Language」と題して、プログラミングの目的であるコミュニケーションについてRubyとどの様に関係しているのかご講演いただきました。

2013年は、おなじく島根県松江市で11月21日(木)、22日(金)に開催を予定しています。

### ●来場者について

2日間延べ949名(11月8日 577名、11月9日 372名)

来場実数 674名(県内 406名、県外 259名、海外9名)

- ・IT企業関係者 304名(県内118名、県外186名、海外6名)
- ・その他企業関係者 89名(県内56名、県外33名)
- ・行政関係者 59名(県内47名、県外12名)
- ・研究教育機関関係者 173名(県内166名、県外7名)
- ・一般(所属なし) 27名(県内13名、県外14名)
- ・講演者 16名(県内6名、県外7名、海外3名)

### ●講演者について

- ・国内13名(企業関係者9名、教育研究機関2名、行政機関2名)
- ・海外3名(アメリカ2名、ドイツ1名、うち企業関係者2名)

## (3) セミナー活動

当財団の単独主催、又は関係機関との共催、協力を得てビジネスセミナーを4回開催致しました。これらのセミナーでは、Rubyの利用状況と今後のビジネストレンドをはじめ、開発現場で必要とされる技術情報など、開催地の状況に応じた話題提供をすることで参加者のニーズに合わせたセミナー機会を提供しました。ま

た、セミナー後の質疑応答やセミナー後の意見交換の場など、Web上だけではない「リアルなビジネス交流」の機会を提供しました。

各セミナーでは参加者にアンケートを実施し、情報発信事業に対する評価と当財団への要望も意見集約し、今後の事業内容の検討にも活用しています。

開催時期、会場	開催テーマ	来場者数(名)	備考
2012年 6月、東京	国際規格承認	約150名	IPA 共催
2012年10月、東京	クラウド×Ruby	約80名	IIJ 開催協力
2012年12月、東京	現場で必要とされるテクノロジー	約50名	単独開催
2013年 1月、大阪	エンタープライズRuby	約140名	Ruby ビジネス協議会開催協力
2013年 3月、松江	Mruby	約60名	松江市、島根県共催

#### (4) その他、イベントの開催

開発から20周年を迎えた2013年2月23日、当財団と一般社団法人 日本 Ruby の会が共催し、Ruby20周年記念パーティを開催しました。

当日は、Rubyに縁の深い方々からの御祝辞や、Rubyのこれまでを振り返るインタビューコーナーなどを行い、松本理事長や開発コミッタの方々を囲み、日頃からRubyを利用するユーザ、ビジネスや研究に活用する方々など約300名が参加しました。

#### 4) Ruby技術者認定試験事業

2012年度も、Rubyベースのシステムを設計、開発、運用するエンジニア、Rubyでシステム提案を行うコンサルタント、Rubyを教える講師などを対象とした認定試験制度を実施しました。

認定者は、Ruby技術者としての技術力を公正に評価され、高い水準のRubyによるシステム開発能力を持つことを認定されます。認定によりRubyベースでシステム開発を行ううえで必要な基礎的な知識と応用力をもつことをアピールすることができます。

試験の合格者は、当財団が「Ruby Association Certified Ruby Programmer」として認定します。現在は、国内(試験区分：Silver、Gold)、海外(試験区分：Silver)で実施しており、2012年10月より当財団が直営実施(CBT受験環境、オペレーションはプロメトリック社に委託)しており、安心して受験いただける環境を提供しています。

#### 5) 事業者認定事業

従来から実施している認定システムインテグレータプログラム(Rubyの高い技術力を持った企業を認定)に加えて、2012年10月から認定教育機関プログラム(Rubyの教育をおこなう高い技術を持った企業を認定)、認定サポート事業者プログラム(Rubyのサポートサービスを提供する高い技術を持った企業を認定)、及び認定クラウドサービス事業者プログラム(Rubyアプリケーションの運用に適したクラウドサービス(IaaS、PaaS)をおこなう高い技術を持った企業を認定)の各プログラムを実施しています。2013年3月31日時点での認定企業数は以下のとおりです。

認定種別	Gold	Silver
認定システムインテグレータプログラム	15	55
認定教育機関プログラム	2	—
認定サポート事業者プログラム	2	—
認定クラウドサービス事業者プログラム	2	1

## 6) 協賛会員事業

2012年度から、さらなる事業活動の充実を図るため、Rubyの普及・発展のための事業に賛同し、支援いただける協賛会員を募集しました。

### ・会員資格

法人、任意団体及び個人

### ・会員種別、会費

年会費 1口 10万円（4月を開始月とします）

①Platinum Sponsor 5口以上（50万円以上）

②Gold Sponsor 2口以上（20万円以上）

③Silver Sponsor 1口以上（10万円以上）

2013年3月31日時点での協賛会員数は、以下のとおりです。

Platinum : 年間 5口以上	Gold : 年間 2口以上	Silver : 年間 1口以上
9	17	30

## 7) 寄付事業

当財団の事業に賛同頂いた個人より寄付を頂きました。

寄付者芳名
及川和彦 様
中村浩士 様
中村成洋 様
中村宇作 様
澤田盛繁 様

他、芳名掲載の希望なし 1名